② 『学校教育目標とホームルーム経営』の研修講座資料を基に，これからの教育実践やホームルーム経営に生かしていきたいことや今後取り入れていきたいことをまとめる。

高等学校５年経験者研修講座の『学校教育目標とホームルーム経営』の資料「６　生き生きとした学級経営」の中に、学級通信に関する記載がある。自分自身が勤務校において１学期末の学級通信を作成しているタイミングと重なったこともあり、今後の取り組みについて考えさせられた。

資料には「児童生徒の良さや成長の様子を学級通信で紹介することは、学級担任が児童生徒や保護者に温かいメッセージを送る場となり、強い信頼関係を築くとともに，学級集団の育成に大きく寄与することにつながる。」とある。自分自身がこれまでに配付した学級通信を振り返ると、学習に関する数値、クラスの写真や様子、学級日誌に記載されている生徒の声、連絡事項などの記載が中心であった。系統性がなく、その場で読んで終わりのような学級通信だったと反省させられた。そこで、今後の学級通信では SWOT 分析を意識した学級通信の作成、そして学級経営に取り組んでいきたいと考えている。これまでの学級通信では、S（強み）、W（弱み）、O（機会）、T（脅威）に当たる事項を記載していたとしても、組み合わせたりクロスしたりして特色づくりをする、問題解決を図ろうとする発想を持っていなかった。クラスの学習成績や学習時間なども記載してきたが、こういった数値に関しても S（強み）なのか W（弱み）なのかを生徒自身が考えて自己の状況を把握することが第一歩となる。目標到達に向けて、どのように周囲の環境を利用すればよいのかを担任として提案しながらも、各生徒が情報を分析し組み合わせながら進んでいける学級通信を作成していきたい。

③ 教科指導上の悩みや課題

（１）体育　球技（ゴール型）の男女共修授業における男子生徒の運動量確保について

現在の勤務校では年間を通じて球技の選択授業を３～４回実施している。ネット型、ベースボール型、ゴール型の全ての球技を実施しているが、ゴール型の球技において男女共修授業を行った際の男子生徒の運動量確保に苦慮している。ネット型のバドミントンや卓球では、ダブルスのルールで女子生徒２名対男子生徒１名のゲームをするなどして、男子生徒の運動量を確保できている。また、ベースボール型のソフトボールにおいても守備側の人数を増減させることで、男女の運動量や満足感を確保しながら授業を展開できている。しかし、ゴール型の球技で男子生徒と女子生徒が同じゲームに参加した場合、男子生徒が力強い動きや素早い動きを発揮する場面が極端に減ってしまう。接触するプレーが多いだけに、ルールの変更にも苦慮している。

（２）保健　アクティブラーニングを取り入れた授業における評価

年度初めに保健のレディネス調査を行うと、高等学校で習得してもらいたい知識のうち、かなりの部分を既に理解している生徒が数多くみられる。そういったこともあり、知識を対話の過程で活用し学びを深めることを目標にした授業を目指している。学校としても数年前からアクティブラーニングを全教科において活用することが推奨され、保健体育科教員も試行錯誤しながら授業を計画している。

授業の評価は、習得している知識をどのように自らの生活や社会に活用していけるかを発表させたり、ワークシートに記述させたりして評価することが多い。「思考・判断」の部分を重点的に評価したいと考えているが、考査において授業と同じような評価基準の問題を作成しようとすると、問題の分量が少なくなったり、採点基準が科内で統一できないという問題が生じる。授業で得た知識を活用し答えを導くような問題を作成したいのだが、うまく実施できていないのが実情である。

④ ③のうち解決に向けて取り組んだ具体的事例、又はこれから取り組みたいこと

③の（２）の事例について

これまで保健において、授業（校時内）において小テストを実施したことはなかった。しかし、ある程度の単元が終了したタイミングで、習得している知識をどのように自らの生活や社会に活用していけるかを評価する小テストを実施できればと考えている。小テストでは主に「思考・判断」を、定期考査では「知識・理解」を重点的に評価するような単元計画を準備していきたいと考えている。